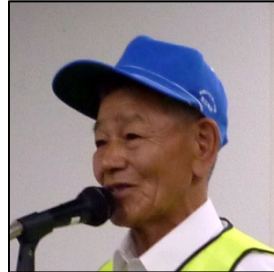


松江地区お帰りパトロール隊（和歌山県）

活動地域の紹介

皆さん、こんにちは。私は、和歌山県松江地区お帰りパトロール隊副隊長の背山でございます。隣にいるのが隊長の川崎です。どうかよろしく願いいたします。

私たちが活動する松江地区は和歌山市の北部にあり、商店街や住宅街で形成されている地域です。また、住友金属和歌山製鉄所の大規模工場地域と隣接しているほか、周辺には大型スーパーなどが建ち並び、日常から人や車の通行が非常に多い地域です。また、私たちが暮らす松江地区には世帯数が約4千世帯あり、約1万人の住民が暮らしております。



1 活動地域の紹介

- (1) 松江地区・・・和歌山市の北部
住友金属工業和歌山製鉄所に隣接
大型商業施設、商店街、住宅地
- (2) 活動地区・・・松江小学校校区内
世帯数約4,000戸、人口約1万人
東西約1.9km、南北約0.8km

団体の概要

松江地区お帰りパトロール隊は、平成15年に全国各地で子どもの行方不明事件などが相次いで発生したことで、「松江地区の子どもは松江地区で守ろう」という気運が高まり、平成16年4月8日に松江地区連合自治会を主体として、各自治会、地域安全推進員会、婦人会、老人クラブなどの各団体から協力をいただき、約250名の隊員で結成しました。また、パトロール活動には、松江地区連合自治会配下の各種団体の方々のほか、一般住民の参加をいただいております。現在の隊員数は654名で、平均年齢は70歳です。

2 団体概要

- (1) 設立・・・平成16年4月8日（隊員250名）
- (2) 構成員・・・654名（平成24年3月末現在）
平均年齢70歳
- (3) 構成団体等
連合自治会、地区自治会、和歌山市松江連絡所、社会福祉協議会、地域安全推進員会、人権委員会、婦人会、老人クラブ連合会、防火委員会、婦人防火クラブ、公民館、母子寡婦福祉協議会、民政児童委員会、交通指導員会、消防団、松江幼稚園、松江小学校、河西中学校、松江小学校PTA、母親子どもクラブ、その他商店主、一般地域住民など多様な団体等。

活動内容～子ども見守り活動

私たちが行っている活動は、松江地区にある松江小学校の下校時における子どもたちの見守り活動です。見守り活動は天候の善し悪しに関わらず、小学校の授業がある日、月曜日から金曜日まで毎日実施しております。活動に当たって、毎月小学校から子どもたちの下校予定表をいただいております。それを基に和歌山市松江連絡所から一斉に無線放送を使って「これから松江小学校の子どもたちが下校します。パトロール隊の方はパトロール及び出迎えをよろしくお願いいたします。」と放送し、各隊員に活動

の開始を知らせております。

活動時間は、放送開始の午後2時 40 分ころから午後4時ころまでの約1時間 20 分程度で、松江地区の交差点や脇道において実施しています。そのほか、隊員個々の活動が負担とならないよう、曜日ごとに班編制を行い、班単位で見守り活動を行っております。また、高齢の隊員には自宅周辺や自宅前で活動をしていただいております。私たちは見守り活動の際、下校中の子どもたちに「お帰り」と声を掛けて迎えています。

見守り活動を開始した当初は、子どもたちは隊員から声を掛けられると、とても恥ずかしそうにしておりましたが、今では子どもたちから元気よく「ただいま」と返事が返ってくるようになってきました。今では、松江地区の子どもたちには、挨拶するということが定着していると思います。この「お帰り」の声掛けにより、子どもたちと隊員との間に心のつながり、つまり絆が生まれ、子どもたちは感謝の気持ちを抱くようになり、子どもの健全な精神の育成にも大きく役立っていると思います。

子どもたちと隊員との絆のエピソードを2つ紹介させていただきます。1つは昨年、94 歳で亡くなりました隊員の松本竹造さんの話ですが、松本さんは活動開始当初からほとんど休むことなく、交通量の多い交差点で活動を続けられておりました。次第に、子どもたちから「竹ちゃんマン」の愛称で呼ばれ、松本さんが両手を広げて子どもたちを迎えると、子どもたちは「ただいま」と元気に挨拶をしながらハイタッチをするほどに慕われておりました。松本さんが見守り活動に遅れたときなどは、子どもたちが松本さんの体調を心配し、自宅まで様子を見に行くということもありました。松本さんの活動は、マスコミにも数多く取り上げられてきたところです。

もう一つは、活動を始めた年、小学3年生の子どもたちが隊員にお礼の手紙を書いて渡してくれたという出来事があり、それをきっかけに、毎年、3年生全員が全隊員に年賀状を書いて送ってくれるようになりました。そのほかにも、子どもたちから隊員に対する感謝の気持ちを表すイベントとして、毎年、学校で小学1年生から6年生の全児童による「ありがとう集会」を開催してくれ、子どもたちが歌とか踊りといった催しをしてくれます。

また、子どもたちが自宅から集めてきたアルミ缶をお金に換え、高齢隊員の見守り活動の負担を少し



4 活動の効果

(1) 隊員と児童との「絆」

- ・ 隊員による声掛けにより、児童らが元気よく「ただいま!」「こんにちは!」と挨拶するようになった。
- ・ 最高齢隊員「竹ちゃんマン」との絆



でも軽減するためにと、折りたたみ椅子をプレゼントしてくれましたし、そのほかにも、ベスト、腕章、横断旗等をプレゼントしてくれています。

このように、子どもたちから隊員に対する感謝を表すイベントに招待していただき、隊員の士気高揚にも大きくつながっているところです。

パトロール隊の活動内容や子どもたちとの触れ合いについて話してきましたが、見守り活動を通じ、活動当初と比べ、子どもたちが育ってきているということ

強く感じているところです。子どもらしい子ども、元気な子どもが増えてきたことを強く感じております。活動を始めた当時、小学生だった子どもたちが中学生、高校生と成長し、その生徒たちと町中で会えば、子どもたちから先に挨拶をしてくれます。

また、毎年、小学校の卒業式に呼ばれますが、学校に行けば必ず子どもたちから先に元気に声を掛けてくれます。そのほか、最近、松江地区では茶髪の中学生をほとんど見かけなくなりましたし、警察署からは非行少年が減少してきているというお話を聞いております。

このように、私たちが平成 16 年から子どもの見守り活動を続けてきた中で、子どもたちが育っているということを肌身で感じるできるようになってきております。私たちの活動が少しでも子どもの健全育成に役立っていると思うとうれしく思います。



(3) 松江地区でタバコを吸う少年や茶髪の少年を見かけなくなった

(4) 街中で会えば、児童らが挨拶してくれるようになった

(5) 自主的にパトロール活動に参加する中高生が出てくるようになった

(6) 刑法犯認知件数(和歌山北警察署管内)

平成16年(発足時) 2,085件
平成23年 1,284件

※ 発足当時から801件の減少

今後の課題

パトロール隊を結成しまして9年目となります。パトロール隊活動の課題もあります。子どもの見守り活動は、目に見えない犯人との闘い、自然との闘い、時間との闘い、継続との闘いではありますが、まず一つは、いかにして今の活動を維持し続けるかという課題です。この対策として、年度初めや学期終了後に隊員を集めて、活動の反省点、今後の取組等について話し合いをするなど、常に問題意識を持って活動をするようにしています。

また、隊員の防犯意識の高揚を図るため、定期的に警察官を講師に招き、防犯講習会を開催しております。平成 18 年には、不審者を目撃した際に役立つように警察本部の鑑識課員を講師に招き、似顔絵講習会も開催したところです。

もう一つは、隊員の高齢化という課題です。最初に話しましたように、パトロール隊員の平均年齢は 70 歳と高齢化してきており、若年層の隊員が少なく、活動を維持させていくためには後継者問題が急務となっております。とはいっても、今すぐ解決できる問題でもありませんので、高齢の隊員が少しでも長く見守り活動を続けられるよう身体的な負担の軽減も考えて、自宅周辺で活動してもらえるようにしております。そのほか、高齢隊員に士気を高めてもらうため、年に1回開催する隊員の全体集會におきまして、一昨年は 80 歳以上の隊員全てに対し、昨年は 80 歳を迎えられる隊員に対し、隊長でもある連合自治会長、警察署長、小学校長連名による感謝状を送っております。

以上、私たちの活動内容について話してきました。

今後、地域が一体となり、地域の発展と安心・安全な町づくりを目指し、末永くこの活動を続けていかなければならないと思っていますところです。

6 今後の課題

子どもの見守り活動は、

- ・ 目に見えない犯人との闘い
- ・ 自然との闘い
- ・ 時間との闘い
- ・ 継続との闘い

であり、終わりのない活動です。

質疑応答

●質問 松江地区さんでは敬老会であるとか、さまざまな団体の方々がそれぞれパトロールに参加をいただいているようですが、どうしても活動が重なるときはないのでしょうか。そういったときはどのようにしたら効果的なパトロール活動ができるようになるかということで、お骨折りとか工夫がいるのかなと感じ取ったところですけど、その辺りの配分、割り振りはどのようにしておられますか。

○回答 まず、私たち松江地区は5つの地区から構成されており、それぞれの地区に会長がおり、それぞれの地区に役割を分割しております。私のところの自治会では、会長が前もって隊員一人一人に都合の悪い日などを聞きまして、それを基に会長が小学校からいただいた予定表と照らし合わせて割り当て表を作成しています。あくまでも私たちの活動はボランティアですので、隊員に活動を強制することはしません。会長さんにはいつもきめ細かい割り当て表を作っていただいていますので、大変苦勞されていると思います。このようにして、会長は隊員と連絡を密に取りながら役割分担を決めています。

●質問 まず、小学校から学校の予定表を取り寄せて、情報を把握した上で、それが会長さんのもとに吸い寄せられるような形を取って、それで割り振りを決めていく。情報を一点に集めるという工夫をされているということですか。

○回答 そのとおりです。